

試験研究活動情勢報告（令和元年12月分）

【果樹試験場】

「土佐文旦」における野囲い貯蔵資材の検討



野囲いの様子

「土佐文旦」は通常、寒害を避けるため年内に収穫し、「野囲い」と呼ばれる方法で追熟した後、1月下旬頃より順次出荷されます。野囲いでは、貯蔵資材に稲わらが使用されますが、近年は稲わらの確保が困難になっているため、稲わらの代替資材を検討しています。これまでの調査から有望資材として選定したアルミプチ(アルミ蒸着気泡緩衝材)とエナジーキーパー(アルミフィルム、樹脂綿、黒不織布を組み合わせた多層断熱被覆資材)を使った場合の貯蔵性を調査するために野囲いを設置しました。今年度も、茶業試験場に設置し、極温が低い場所での果実品質や貯蔵障害を調査するとともに、アルミプチは現地実証試験を行い、代替資材の耐用年数についても検討する予定です。

現地検討会での情報提供

～スモモ現地検討会とニホンナシ現地検討会～



スモモ現地検討会の様子



ナシ現地検討会の様子

12月5日に高知県果樹研究協議会主催によるスモモ現地検討会が開催され、生産者及び関係者19名が参加しました。果樹試験場はせん定について実演を行いながら情報提供しました。

また、12月11日にはニホンナシ現地検討会が開催され、生産者及び関係者54名が参加しました。果樹試験場は昨年度終了した試験研究成果と現在取り組んでいる試験について情報提供しました。

今後とも果樹研究協議会の活動を支援と研究成果の周知に努めていきます。